

第4回里山フェスティバル「里山シンポジウム」

分科会(13分科会)報告



司会・進行 中村俊彦 (千葉県立中央博物館副館長)

総合司会 小西

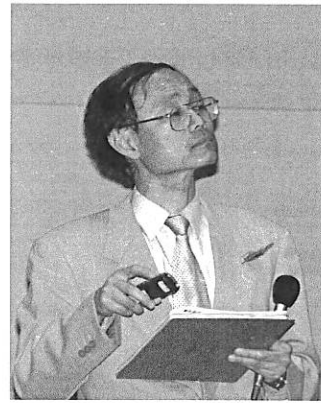


「八千代の里山」と題して高橋秀文さん、「里山と野生動物」石山 大さん、「里山と医療福祉」赤城建夫さん、「里山と森林農林業」稗田忠弘さん、「里山と健康・食」遠藤イサムさん、「里山と教育・学習」上善峰男さん、「里山と生物

多様性」鈴木優子さん、「里山となりわい・起業」木下敬三さん、「里山と人」木下登志子さん、「里山と残土・産廃」井村弘子さん、「里山と水循環」桑波田和子さん、「里山と政策」金親博榮さん、「里山と竹」田代武男さんです。これより、千葉県立中央博物館副館長の中村俊彦さんよりご紹介いただきます。

司会 中村

毎年恒例になりました分科会報告です。分科会の討議結果やこれから開催する分科会の予定、短くてすみませんが、今年は各2分間でお話いただきたいと思います。なお、分科会報告の後に、今回の全体テーマの「なりわ



い」って何、ということも是非、ひとこと言っていたくようにしたいと思います。それでは、まずは報告、第一分科会「八千代の里山を語る会」からお願い致します。

高橋 第一分科会、八千代市環境保全課の高橋です。テーマは「八千代で里山保全活動を進めるために」ということで進めました。目的は4つです。1つは里山の現状と生かし方について学ぶ、2つ目に先進的な行政の取り組みについて学ぶ、3つ目に市内で開発の予定がされて



いる、区画整理事業の現状について把握する、そして4つ目に里山に関わる活動をすすめている市民団体の活動の状況の報告と、情報交換、連携を強める、このような目的で行いました。具体的には、『里山の現状と生かし方』ということで、里山センター会長の金親博榮さんに講演していただきました。また、千葉市における谷津里山保全の取り組みということで、千葉市環境保全推進課の斉藤久芳氏から講演をいただきました。また、八千代市の現状ということで西八千代北部特定土地区画整理事業の現状について、市の土地区画整備課長から報告を受けました。また、市民団体の活動報告も、当日10団体が参加していたのですが、うち7団体より報告を受けました。

結果としましては、参加者が里山の大切さや、実際に抱えている問題点を学ぶことができました。また、具体的に保全の取り組みを進めている行政の事例や、県の里山条例に基づく市民団体の事例や、企業の活動事例等を学ぶことができました。さらに環境問題に取り組む市民団体の情報交換、連携を強めることができました。今後八千代市内で里山活動を進める上で、非常に有意義なものになりました。

まとめとしまして、市民、土地所有者、企業、行政が協力し合い、八千代の里山を守り再生しようということで報告を終わりにします。

石山 第2分科会野生動物分科会の石山と申します。



代表の中野に代わりましてご報告させていただきます。僕たちは4月7日に「里海とクジラ～ホエールウォッチングにこう！～」と題して講演会を開きました。内容は、銚子海洋研究所の宮内幸雄氏をお招きして、銚子沖

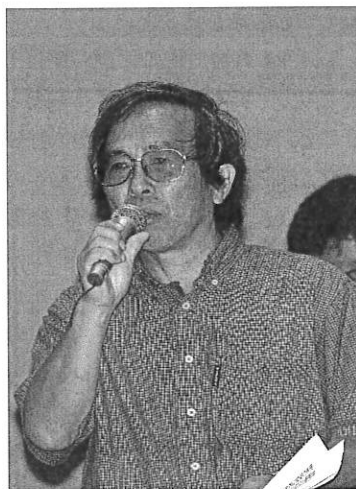
の鯨類について、IFAW〔国際動物福祉基金〕ジャパン事務局長の舟橋直子氏をお招きして「ホエールウォッチングの歴史と現状について」語っていただきました。後半は、城ヶ崎イルカ・クジラ・ネイチャーウォッチングセンターの石井泉氏に「漁師にとってのホエールウォッチング」について、最後にさらに国際海洋自然観察員協会の菅原茂氏、いすみでホエールウォッチングをされている中村松洋氏を迎えてパネルディスカッションを行いました。

僕たちの野生動物分科会というのは、これまで里山に住む野生動物にスポットライトをあてていたのですが、今年は里海、クジラやイルカにスポットライトを

あてて講演会を開きました。最初に、里海とは何だろうと思われる方が多くおられると思うのですが、里山に対比して、山があるなら里海もあるだろうと1990年代の後半から使われ始めた言葉です。里海とクジラの関係を考える時に、その里海のなりわいは何だろうと考えたときに、捕鯨を思いつかれる方は多いと思います。しかし、この捕鯨は今多くの問題を抱えています。クジラは余すところがないと言われている優れた動物ですが、それゆえに乱獲され激減したため、捕鯨については反対の風潮になっています。それに代わって、ホエールウォッチングが現在注目されています。このホエールウォッチングですが、教育的効果や心の豊かさだけで、何も得るものはないのではないかという意見もあると思います。しかし、今回の講演会を通じて、クジラという観光資源が地元にも富をもたらすということがわかりました。

まとめとしましては、ホエールウォッチングというのは、新たななりわいになりえるのではないかと提案します。また千葉は里山だけでなく美しい里海にも囲まれています。ぜひ皆さん、足を運んでみてください。以上です。

赤城 医療と福祉からは、森林療法を実施した、という報告です。



報告です。去年は4回、今年は7回の予定です。1回目は4月25日千葉市泉自然公園で行いました。これからの予定を紹介します。2回目は6月3日佐倉市市民の森で個人療法を行います。一人一人の方のカウンセリング、療法を行う予定です。3回目は8月25日は「夏

の風を楽しむ」というテーマで考えています。4回目は9月23日は「稲刈りの後の香りを楽しもう」というテーマです。5回目は11月23、24日の1泊2日で2度目の個人療法を予定しています。6回目は12月15日は秋が終わり、寒くなったところで火を楽しもう、と考えています。最後の2月23日は寒さの中で、火の暖かさを味わおうと思っています。

4月25日に実施した第1回目の結果ですが、小雨の中で実施しました。参加者の方が書いてくれた感想を紹介します。どこからか遠くから太鼓の音が聴こえた、豊かなゆっくりとした時間がもてた等の感想をいただきました。ここから考えますと、森というのは、人の社会から遠のけてくれるところにいいところがあ

るのではないかと考えています。里というのは、人とつながっていく楽しさが味わえるのだと思っています。7回ありますので、皆さんどうぞご参加ください。

稗田

第4分科会の森林・農林業分科会です。私どもは毎回東金市さんと共同で分科会を開いております。今年のテーマは「地域と共に生きる『なりわい』は成り立つか」です。市民の方と専門家を交えて討論会をやるかと企画しました。内容は、かつてこの地域にもあったような、環境に負荷をかけない暮らし方や仕事の仕方は、現代ではどういう形で成立するのだろうかということテーマにしました。リポーターとして、



山武杉で地産池消の家づくりをする、さんむフォレストからのレポートと、今日のパネラーにもなっております。グループ「木と土の家」、という材木屋と工務店が一緒になって山武杉で家づくりをしようというグループと、東金市の農政課の方と、鈴木さまという農民の

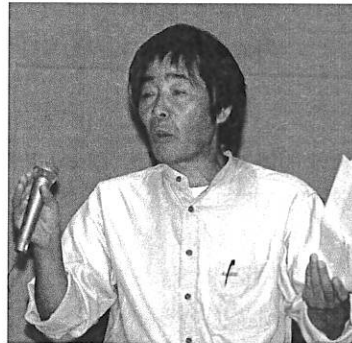
方より営農組織をつくって、美しいふるさとづくりをしようという活動のご報告を頂きました。

結果としては、4月28日を開催日に選んだら、一番の農繁期で、農家の方、農家を兼ねた林業家の方が来られないということで、参加者は非常に小人数になりました。行政の方、民間の木材会社の方、農家の方が膝を交えた話し合いができたということで、内容としては充実した討論ができたのではないかと思います。農業の方から、地域で活動する人それぞれが役割を見つけて、人の心をどう酌んでいくかが大事なのではないか、とお話を頂きました。林業からは、自分たちの暮らす地元の特産材である山武杉で住まいをつくることによって、地域循環に貢献する仕事をする、自分たちは建築を通じてなりわいをする、というお話を頂きました。行政からは、消費者が地産地消に目を向けて地域循環へ参加して欲しいというお話をいただきました。なりわいが成り立つための方法としては、消費者の消費行動をなりわいを支える側に向けていただきたいということです。こういうなかで、市民と行政が信頼関係の中で情報を出し合うことが大事だということ、市民に地元を知ってもらうきっかけを作って、消費行動を変えてもらうことが大事だという結果になりました。ありがとうございました。

遠藤

第5分科会「観光と食」の遠藤と申します。千葉県南房総市平久里というところなのですが、みなさんテ

レビでお馴染みの「ダッシュ村」ってご存知ですか？あれをそのままつくるのではないのですが、ダッシュ村ようなところができるといいなあということで、勝手に取り組んでいます。なりわいから思い浮かぶことを、みなさんからいくつか出してもらいました。出してもらったものを、この場所でどれだけ取り込めるかということを考えました。今日、受付のところこの



場所の下手な絵を描いてあります。そのところにポストイットも置いてあります。みなさんそこで何かを感じましたらポストイットで貼っていただいただけるととても助かります。そ

んなところで、なりわいということについていくつか話し合いました。場所は、スライドにもあるように、茅葺き屋根の民家があって、その前に畑があって、棚田があって、すごくいい場所なのです。一度見ていただけたらと思います。

私はせっかちなので、すぐ結果を言います。結果としては、この場所で一番大切にしたいことがあります。それは、子どもや大人や老人たち、人間だけではなくほかの生き物たちもがこの場所に来たら何かを感じ取れる場所にしたいということです。では、ポストイットをよろしくお願ひします。

上善

第6分科会「里山と教育・学習」を担当しております。



森林文化教育研究会事務局の上善と申します。私どもの活動は2分では到底話しきれませんので、映像を見ていただいて、若干補足したいと思います。

今年は子どもたちが主役でした。千葉市立みつわ台北小学校6年生の諸君です。彼らは5年生の

時から調べていることをまとめて、先日中央博物館で報告をしました。美しい国づくりと言われていますが、美しい国をつくるには美しい心を持った人を一人でも多くつくること、それが小学校の役割ではないでしょうか。そこで、農業を体験し、自分たちが見えなかったものが見える心をつくるということで行いました。その結果、彼らはこの地に残る農業の信仰というところまで踏み込んで調べ、その後は学校全体が活性化した感じでした。以上です。

鈴木 第7分科会は「生物の多様性が支える里山のなりわい」をテーマにいたします。7月1日に中央博物館で行います。里山シンポジウムと生物多様性県民会議両



方の主催で開催致します。内容は、里山の生物の多様性が支える生産活動・なりわいの現状を知り、これを近未来に引き継ぐ戦略を話し合い、提案します。また、里山の自然と一体となったなりわいの素晴らしさやおもしろさ、生活の工夫と共に大変さも認識しあい、里山でのなりわ

いを再興するためにはどのような県民の協力と努力が必要かを話し合います。お楽しみとしましては、里山の生物の多様性の恵みとして千葉県では菜の花のはちみつが採れます。その農家→養蜂家の方をお呼びしております。菜の花、レンゲ、ソバ、クローバー、アカシアなどの蜜源の違うはちみつの試食をしていただきたいと思っております、またハチが交配した里山の果実酒も展示でご用意したいと思っております。ぜひみなさま、いらしてください。

木下 第8分科会 里山となりわい起業の起業講座を担当します木下です。里山活動に関わらず、福祉、子育て、ボランティア活動を行っていらっしゃると思いますが、これは決して勤労奉仕ではありません。人のため世のために人に喜ばれる活動をしなが



お金を無視してでも考えていきたいと思います。ことではんがつづきません。

また助成金や補助金たよりではなく自立してやっていきたいと思っています。その中で、活動費はもちろん新しい形態

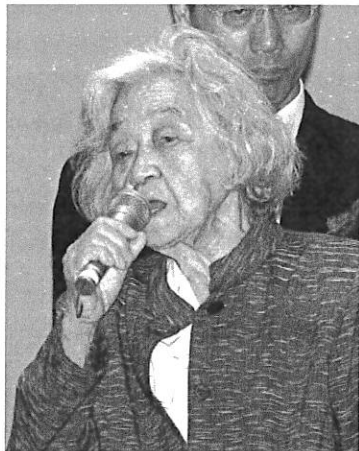
の有限責任組合や有限会社など様々な形で、業を起こして生活費までという、なりわいにつなげる講座を企画しました。講師には、女性のための世界銀行日本支部 WWB ジャパン代表の奥谷京子さんという専門家の方をお招きして、7月16日海の日に山武市の旧松尾町役場の前にある農業改良普及センターで行います。参加費は1000円かかりますが、農業だけではなく福祉などのボランティアをされている皆さん、ぜひお集まり下さい。よろしくお願ひします。



木下(登) 第9分科会「谷津守人」我孫子市から来ました木下と申します。我孫子市にあります、岡掘戸一部谷津の36.7haの土地を野外ミュージアム、谷津ミュージアム構想というものをもっておりまして、ここを市と市民の共同で復

田作業と生物の多様性を促進するようなことをおこなっています。昨年は市民が維持管理をしたことで、水辺が増え、赤カエルが急増したということをご報告しました。その後も精力的に活動しており、田んぼも昨年より2倍以上に増えております。

今年は徐々に農業者の支援も頂きまして、農業者からの視点による意見ももらえるような分科会を開催したいと思っております。まだ、開催日、場所は我孫子市内、ときちんとは決まっておりますが、ホームページの中で決まり次第ご案内したいと思います。徐々に人とつながりが広がって、さらに放置水田の復田に繋がっていけばいいなと思っております。開催の際にはぜひ足を運んでくださいますよう、よろしくお願ひ致します。



ワークちばの井村と申します。里山が残土産廃に荒らされているということは皆さんご存知だと思います。もうこの10年前には里山をもっていってしまい、その後にもってきたのが残土産廃だったのです。今、また里山の森を切り払ってその何万年も前から堆積している石や土を首都圏の建造物にもっていってしまう、ということが行われています。大網白里町の萱野の田園地域に産廃廃棄物場ができる、何とかして欲しいということで、4月にはこの萱野に、5月には八千代の吉橋というところにまいりました。吉橋は産廃を埋めた上に団地ができるという問題です。6月、7月、8月とあちらこちらで問題が起こりますので、とにかく見に来て欲しいと地元の方から言われています。里山がなくなるのではなくて、里山の中にある森が又山がなくなってしまう、これは本当に問題だと思います。私たちは今ある森や山をどうやって守っていこうかということで一生懸命やっております。何万年も千葉県を支えている地層に手をいれて他県の建設事業に持っていってしまうなど、千葉県民として許せることでしょうか。とんでもないことと思います。



私たちは里山と水循環について地下水の仕組みや谷津田の効用などを学んできました。今年は現場を見学し学びの場としていきたいと考えております。「水循環と生物多様性」、湧水と生き物の場を見て考えていきたいと思います。6月30日10時～16時に開催を予定しております。場所は、千葉市緑区大藪池という大地から水が染み出してくる感動的な湧水です。そこで現場を見て、講演に入りたいと思っております。内容は、午前中に大藪池の

学、谷津田で耕作している方々の紹介と生き物観察をします。午後には、越知公民館に移動して千葉大園芸学部の唐先生が長年研究されています、地下水と涵養域、水質のことについて講演していただきます。大藪谷津で活動している市民団体からは、生き物と保全についての報告を聞きます。そして、水循環と生物多様性についての話し合いを全員でしたいと思っております。先着30名様です。東金市からも近いのでぜひみなさんご参加下さい。よろしくお願いします。

金親 第12分科会 里山と政策 ということでは環境支払いを勉強してみたいと思います。ご存知の通り、農家が、林業家が田んぼや畑、山をきれいにしていくということは、これまでは、最終的には生産物の売上げが目的だったのですが、これがまさに国を守る、文化を守る、個々の生活を守ることであったということが今再認識されています。これに対して商品の価格を下げ支えするという形では既に国際的にはもう通用しません。そんな段階のなかで、環境に配慮した食物、環境



に配慮した活動が農家、林家に求められています。そういった活動に対して国家的な助成を行おうではないかということがこの19年から始まります。そういったものを、ヨーロッパやアメリカの例を勉強して、千葉県にもこういう例を広めてほしい、その勉強会を開きます。7月8日、千葉市生涯学習

センターで13時から行います。よろしくお願い致します。



ピーということで、7月28日土曜日10時～16時まで四街道市の中台にて行います。かつて竹は日本人のなりわいに深く関わってまいりました。しかし、竹をとりまく環境は劇的に変化し、今や竹はやっかいもの扱いにされております。NPO法人竹研究会は時代に合った竹林の活用を考えてきま

したが、そのひとつが里山の活用としての竹林セラピーです。日本人が育てた美しい竹、めずらしい竹はたくさんありますが、十分に活用されておりません。そこで、里山の竹林を整備し、名竹を里山に移竹することなどを実施してまいりました。竹の美しさを再認識すると共に竹林を健康増進や健康回復に役立てないかと考えております。今回は、白い竹、アルビノの竹を植えてある千坪くらいの竹園を見ていただきたいと思います。また、希望者の方にはオウゴンモウソウチク、これはモウソウチクの幹が突然変異をしたものですが、この見学も午後から予定しております。まず、美しい竹を見ていただき、竹の良さを認識していただくことと、それを通じて里山の活用を考えていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

中村 それでは、一人ずつ、里山のなりわいって何？その大切さも含めて一言ずつお願いします。

高橋 自然という資源に働きかけることによって、人々がいつまでも暮らしていけるような生産活動ではないかと思っています。

石山 里山・里海になりわいというのは、人と共に野生動物も生かすことだと思います。これを機に野生動物の視点からも考えていただけたらと思います。

赤城 人と森の間、人が森の中に入り、人が人から離れられるということが里山の背景にもっている力だと思います。

稗田 里山となりわいは、自分の利益ばかりではなくて、他の人もいいようにという先人の働き方に学ぶことだなと思っています。

遠藤 なりわいってあまりよく分かりません。ただ、食べるために働く、生活をするために働く、贅沢をするために働く色々なことがあります、それがなりわいかなと思いますが、基本は生きるために働く、動物なんか食べるためになんかしますが、これが基本で次に生活するために働く、それから先はわかりません。

上善 里山となりわい、これは里山に人が住めるということです。里山に人が住めなくなれば荒廃します。

鈴木 自然の一部として生きて生かされる仕事で、全人格を賭けた仕事だと思います。

木下 新しいなりわいとして、ボランティア活動の自立

木下(登) ひとつの営みが、他の営みへと連鎖していく、支えあう、そういうようなことかなと思います。

井村 里山を大事に残していく、そのためには住民がみんなと一緒にあって里山を守っていこうとする、その力が欲しいと思います。

桑波田 今世の中は空前の水ブームです。里山を保全して、千葉の水ブランドを目指したいと思っています。

金親 なりわいとは、家族愛であり、隣人愛であり、郷土愛、これが基本になければできないものだと思います。

田代 竹は昔から日本人にとってはなりわいそのものであったと思います。しかし竹を取り巻く環境は大きく変わりましたので、時代にあったなりわいを考えなければなりません。そのひとつが森林セラピーと思っています。

中村 私も、自然・生態の研究者として一言申し上げたいと思います。自然や生物、また生命の軸の中で、人間もそのリズムに合わせて生きていくことが「なりわい」と思います。ぜひ、経済的価値観で社会を判断するのではなく、いま県で戦略づくりも始まりましたが「生物多様性」また「生物・生命・いのち」、そういうものが中心となった社会、まさにみんなで助け合う社会をつくっていかねばならないと思います。

最後に、今回の会場の「東金市」ですが、東金という名称は、鶺鴒、鶺鴒ヶ根から由来していると言われています。千葉の里山、今年は旭市にコウノトリが飛来しました。朱鷺もまた東金の空に舞う日が来るように、そんな夢を追い続けて、里山を大切にしていければと思います。これで分科会報告を終わりにします。どうもみなさんありがとうございました。